

三光

業界初、排出削減事業に承認

CO₂国内クレジット制度で

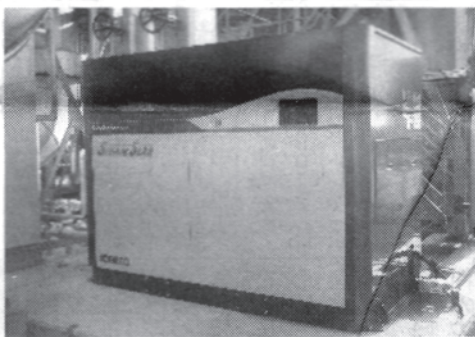
産廃・一廃の総合中間処理事業を展開する

三光（鳥取県境港市、三輪陽通社長、☎0859・44・5367）は、産廃処理業界で初となるCO₂国内クレジット制度の排出削減事業として承認（排出削減授業番号Ⅱ JCDM-1PJ0035）を得た。

同社は、既設排熱ボイラーで発生する蒸気の内、焼却炉で消費されなかった余剰蒸気コンデンサーで放熱し、腹水として利用してきた。この余剰蒸気を活用し、小型蒸気発電機で発電、買電量を削減し温室効果ガス排出量を削減した。

実施者は、日本環境取引機構（東京都中央区）およびファーストエスコ（東京都中央区）、神鋼商事（大阪市中心区）。排出削減量の計画は年間327トで、認証機関である2009年1月13日から3月31日の実施期間の合計は1384トとなる。

三光は79年の設立で、81年に産廃処理業許可を取得。現在、鳥



導入した蒸気発電機

境港市）でも、大型焼却施設を稼働させている。今回承認を得た江島工場（島根県松江市）のほか、潮見工場（鳥取県

取、島根の両県で産廃・一廃の中間処理事業を手掛けています。今回承認を得た江島工場（島根県松江市）のほか、潮見工場（鳥取県